

音響システムをより安全、安心に 「ネットワーク監視システム」のご紹介

ヤマハサウンドシステム株式会社

～はじめに～

音響機器の音声や制御の伝送はネットワークを使用することが一般的になりました。これまで音声や制御の伝送には多種多量のケーブルを使用してきましたが、LANケーブルや光ファイバーケーブルで集約できるようにもなってきました。デジタル化によって従来のアナログでは対策が困難だった長距離伝送時の劣化やノイズ誘導の影響を受けにくくなるなど、様々な課題が解決できるようになりました。

一方、ネットワークを便利に使いこなすには、従来の音響システム構築では必要としなかったLANケーブルや光ファイバーケーブル、そしてネットワーク機器などの知識が必須となっています。

これまで当たり前になりつつあるマイクロフォンやスピーカー、音声回線のチェックをおこなってきたように、これからはネットワークのチェックも重要です。ネットワークを使用した機器は今後も急激に増えていくと思われ、「ネットワーク監視」は音響システム全体の健康状態を把握し、安全で安心な運用するために欠かせないものと言えます。

～音響システムのチェック～

音響システムの管理者がおこなうシステムチェックは重要であるものの、最も大切な“音と向き合う時間”に注力するためにもシステムチェックの時間はなるべく短くしたい、というのが本音ではないでしょうか。特にネットワークのチェックの方法は、今までの音響のチェックとは大きく異なるため、より時間を要してしまいます。

そこで音響ネットワークの状況をひと目で把握できる

「ネットワーク監視システム」を紹介します。「ネットワーク監視システム」は短時間のチェックでネットワークの健康状態を正確に把握することができます。音響システムの障害対策に貢献し、安全で安心な施設運営を可能にします。

～「ネットワーク監視システム」が提供する 4つのメリット～

■ネットワークの状態を一目で正確に把握

日々のシステムチェックは、公演を円滑にすすめるために欠かせない作業です。音響ネットワーク全体をひとところに、「ネットワーク監視」で確実に状況を把握できます。

■障害対策

音響設備の信号伝送はネットワークを介することが多くなりました。「ネットワーク監視」で安心して施設の運用ができます。万が一、ネットワークに障害が発生した際、容易に原因を特定できます。

■迅速な原因追及

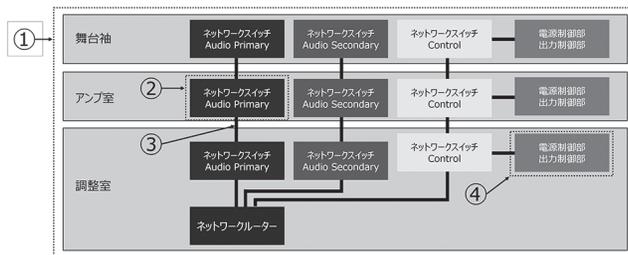
ネットワークに障害が発生した際、履歴データから迅速に不具合の原因を追究できます。復旧までの時間を短縮するだけでなく、不具合を根源から解決することで安心した運用を可能にします。

■ネットワーク回線の安全運用

ネットワーク使用量の状況を明確に把握できるため、同一のネットワークへの移動機器を安全に追加することが可能です。

～主な機能紹介～

以下の音響ネットワークを例に、4つのシステムチェックポイントを紹介します。



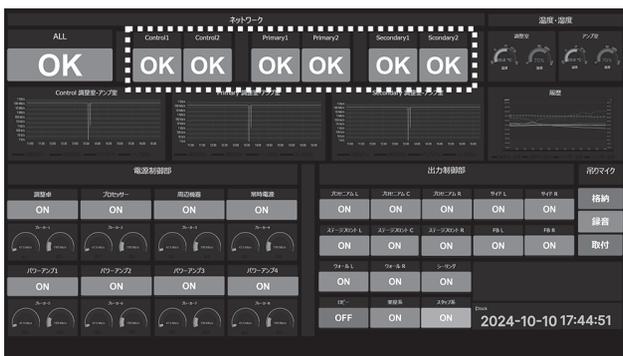
(1) 機器全体監視

一目で音響ネットワーク全体の正常性の判断ができます。音響ネットワークに障害があった場合は、すみやかにエラー通知をします。



(2) 機器個体監視

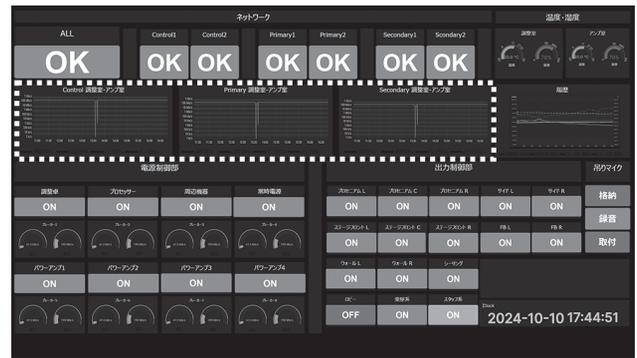
個別に機器の正常性を確認することで、障害の箇所を速やかに発見することができます。運用中は気づきにくい、バックアップネットワークの正常性も確認できます。



(3) トランク回線監視

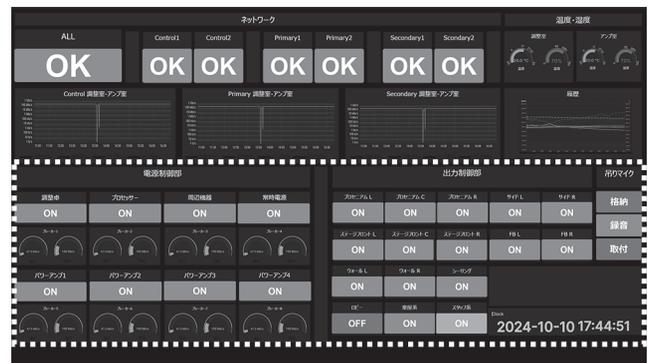
音響システム幹線の正常性を確認でき、使用帯域を監視することで、限られたネットワーク資源を最大限活用

することが可能です。



(4) ネットワーク対応機器の監視 (将来対応)

ネットワークに対応した機器の正常性や運用状況を個別に監視。障害だけでなく、設定値も目視することで意図した動作状況を確認できます。



(5) ラック内温度監視

ラック内の温度を監視することで、高温状態が要因となって発生する音響機器のトラブルを未然に防ぎます。



(ホームページ URL)

https://www.yamaha-ss.co.jp/sound-systems/systems_networkmonitor_specifications.html



◆上記の商品の問い合わせは

ヤマハサウンドシステム株式会社 <https://www.yamaha-ss.co.jp/contactus.html> まで